

高松宮殿下記念世界文化賞

PRAEMIUM IMPERIALE

IN HONOUR OF PRINCE TAKAMATSU



# 世界文化賞 受賞記念建築講演会 2025 エドゥアルド・ソウト・デ・モウラ 建築を語る

日時：10月23日（木）16:00～17:30（開場15:30）

会場：鹿島KIビル大会議室 東京都港区赤坂6-5-30

主催：公益財団法人 日本美術協会 後援：公益財団法人 鹿島美術財団

モデレーター：三宅理一（建築史家／谷口吉郎・吉生記念金沢建築館館長）

伝統と現代の忠実な調和で知られるポルトガルの建築家、エドゥアルド・ソウト・デ・モウラ。アルヴァロ・シザ（1998年世界文化賞 建築部門受賞者）に師事し、「普遍的な建築というものはなく、すべてその場に根差している」と語るように、素材と工法を生かして、地理や空間と一体となる建築に取り組んできました。12世紀の修道院を改修した国営ホテル『ボウザダ・モステイロ・デ・アマレス』（1997年）は、当時から残る石材を活用し、かつての面影を残す現代建築として注目されました。採石場跡地の崖などを生かした市営競技場や、世界遺産であるポルト歴史地区の拠点となる「サン・ベント駅」の荒廃した駅舎を改修したフード・コートは、地域に活気を与えています。2011年には、プリツカー賞を受賞しています。「建築の課題は、現在の問題を解決することにある」と言う、ソウト・デ・モウラの世界に触れてみませんか。